

定 期 作 況 報 告

平成25年7月
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温および平均気温ともに平年より極めて低かった。降水量は平年より多かった（平年比169%）。日照時間は平年並であった（平年比80%）。

7月上旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年より少なかった（平年比30%）。日照時間は平年並であった（平年比115%）。

7月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比9%）。日照時間は平年より多かった（平年比189%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温はやや高く、降水量は少なく、日照時間はやや多かった。

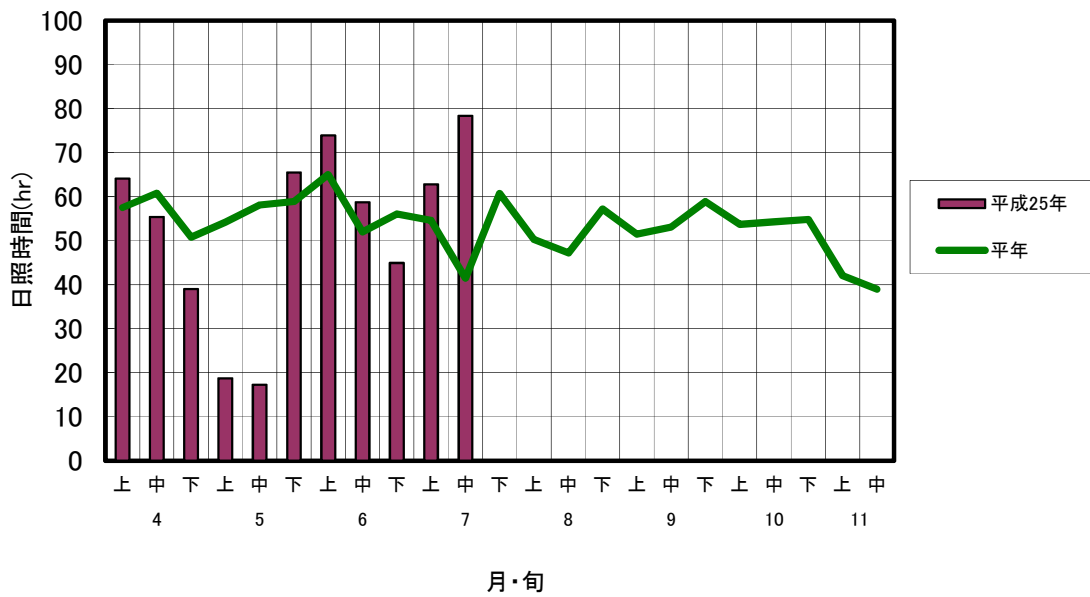
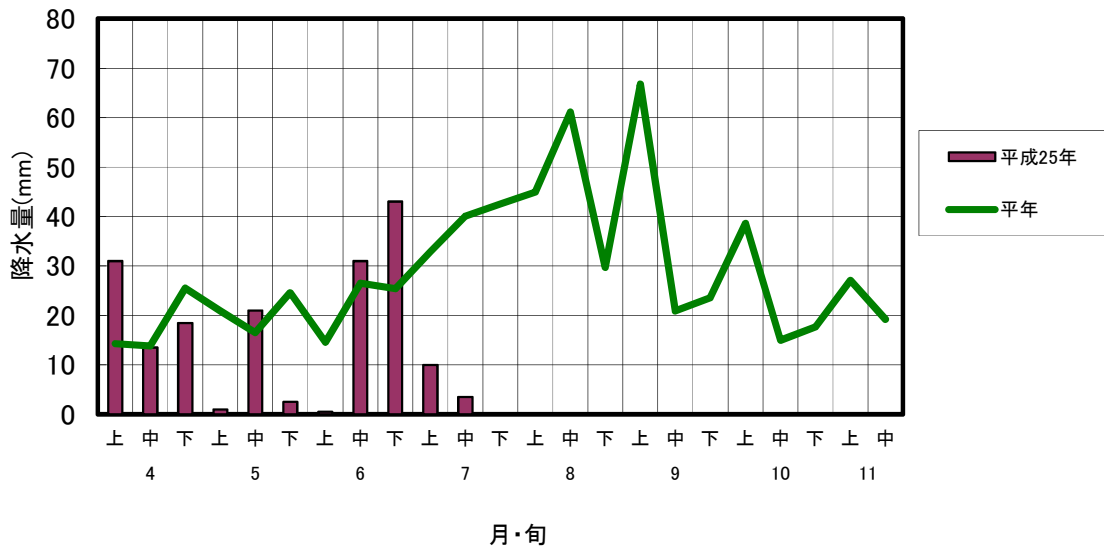
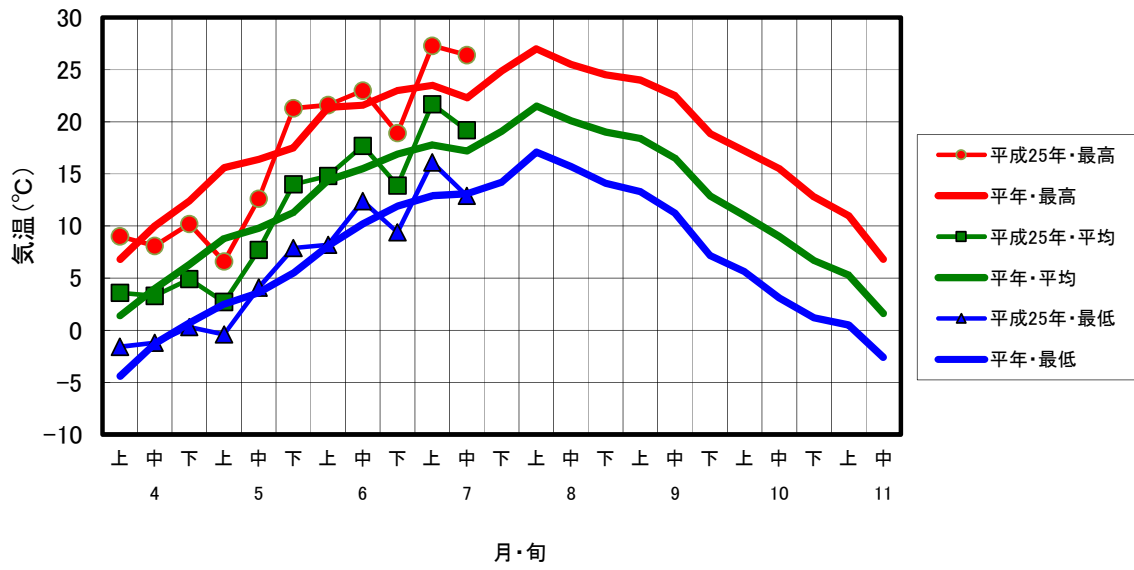
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	13.9	16.9	△ 3.0	18.9	23.0	△ 4.1	9.4	11.9	△ 2.5
7月上旬	21.7	17.8	3.9	27.3	23.5	3.8	16.1	12.9	3.2
7月中旬	19.2	17.2	2.0	26.4	22.3	4.1	12.9	13.1	△ 0.2

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	43.0	25.4	17.6	44.9	56.1	△11.2
7月上旬	10.0	32.9	△22.9	62.8	54.6	8.2
7月中旬	3.5	40.1	△36.6	78.4	41.5	36.9

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：6月下旬の気温は平年より低かったが、7月上旬～中旬の気温が平年より高かったため、登熟は進んでいる。稈長、穂長、穂数は平年並である。倒伏は未発生である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	84	87	△3
穂長(cm) (7月20日)	8.2	8.4	△0.2
穂数(本/m ²) (7月20日)	774	767	7

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：出穂期は平年より1日早かった。この1か月間、気温はやや高く日照時間がやや多かったため、稈長・穂長は平年並である。しかし、穂数は平年より少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月・日)	6.24	6.25	△1	6.23	6.24	△1
稈長(cm) (7月20日)	91	93	△2	89	93	△4
穂長(cm) (7月20日)	7.9	8.3	△0.4	7.3	7.4	△0.1
穂数(本/m ²) (7月20日)	463	571	△108	494	596	△102

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

「はるきらり(参考)」の平年値は前6か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 6月下旬の気温が平年より低く推移したことから、7月上・中旬の気温が平年より高く推移したにもかかわらず、草丈は平年を約10cm下回っている。しかし、葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	153.1	163.2	△10.1
葉数(枚) (7月20日)	12.3	12.1	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : 良

事 由 : 7月上中旬は高温に経過したため、生育は進み、開花始は平年より6日早かった。主茎長、本葉数、分枝数は、いずれも平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.14	7.20	△6
主茎長(cm) (7月20日)	59.1	45.4	13.7
本葉数(枚) (7月20日)	8.3	6.4	1.9
分枝数(本/株) (7月20日)	6.7	3.0	3.7

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや良

事由：7月上中旬は高温に経過したため、生育は進み、「サホロショウズ」の開花始は平年より5日早かった。主茎長、本葉数、分枝数は、いずれも平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.20	7.25	△5	-	7.26	-
主茎長(cm) (7月20日)	21.4	17.7	3.7	21.6	16.8	4.8
本葉数(枚) (7月20日)	7.4	5.8	1.6	7.6	5.8	1.8
分枝数(本/株) (7月20日)	4.9	1.6	3.3	4.7	1.5	3.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：7月上中旬は高温に経過したことから、生育は進み、開花始は平年より3日早かった。しかし、小雨であったことから栄養生長はやや抑制され、草丈、本葉数、分枝数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.6	7.9	△3
草丈(cm) (7月20日)	43.1	40.7	2.4
本葉数(枚) (7月20日)	3.1	3.1	0
分枝数(本/株) (7月20日)	4.2	4.2	0

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：開花始は「男爵薯」で平年より1日遅く、「コナフブキ」で平年並であった。この1か月間の気温は平年よりやや高く、降水量は少なかったことから、茎長は前報に引き続き、両品種とも平年並である。茎数は「男爵薯」は平年並であるが、「コナフブキ」は平年より多かった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.2	7.1	1	7.1	7.1	0
茎長(cm) (7月20日)	49	47	2	72	68	4
茎数(本/株) (7月20日)	3.5	3.5	0.0	4.4	3.2	1.2

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや不良

事 由：7月上旬より、気温が高く降水量が少なく経過したため干ばつ状態となり、茎葉重および根重は平年を下回っている。一方、草丈、生葉数および根周は、ほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	54.7	56.2	△1.5	52.3	52.8	△0.5	45.8	55.4	△9.6
生葉数(枚) (7月20日)	20.7	21.8	△1.1	19.6	20.7	△1.1	15.5	16.9	△1.4
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	454	709	△255	459	665	△206	304	544	△240
根重 (g/個体) (7月20日)	234	267	△33	259	281	△22	112	151	△39
根周(cm) (7月20日)	19.9	21.5	△1.6	22.1	22.8	△0.7	17.0	18.7	△1.7

注1) 注平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前3か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：平年並

事由：1番草は平年より2日遅い6月23日に収穫を行った。1番草の草丈は平年よりやや低く、生草収量は少なかったが、6月上～中旬の平均気温が平年並から高く推移したため、乾物収量は平年対比99%と平年並であった。1番草刈取り後の生育は、7月上～中旬の降水量が平年より少なかったため緩慢で、欠株の発生は認められなかったものの、再生時の草丈は平年より7cm低かった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
出穂程度	1番草	8.0	6.7	1.3
刈取日(月.日)	1番草	6.23	6.21	2
倒伏程度	1番草	4.3	2.4	1.9
病害罹病程度	1番草	1.0	1.8	△0.8
被度(%)	2番草再生時(7/18)	100	100	0
草丈(cm)	1番草	99	105	△6
	2番草再生時(7/18)	35	42	△7
生草収量(kg/10a)	1番草	2572	2841	△269
乾物率(%)	1番草	23.9	22.4	1.5
乾物収量(kg/10a)	1番草	614	622	△8
同上平年比(%)	1番草	99	100	△1

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

出穂程度は、1：極少～9：極多。

倒伏程度および病害罹病程度は、1：無または微～9：甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：球肥大期は平年と比較して、「改良オホーツク1号」は1日、「スーパー北もみじ」は4日早かった。7月上旬以降、気温は高く、降水量は少なめに推移し、生育はやや緩慢であった。「改良オホーツク1号」では草丈、葉身生重が、「スーパー北もみじ」では草丈、生葉数、葉身生重、球生重が、それぞれ平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月・日)	7.6	7.7	△1	7.18	7.22	△4
草丈(cm) (7月20日)	72.9	80.1	△7.2	72.7	81.8	△9.1
生葉数(枚) (7月20日)	9.1	9.4	△0.3	9.0	10.1	△1.1
葉鞘径(mm) (7月20日)	21.2	21.2	0	20.3	21.6	△1.3
葉身生重(g) (7月20日)	117.3	142.2	△24.9	98.9	139.6	△40.7
球生重(g) (7月20日)	115.8	120.9	△5.1	44.5	52.5	△8.0

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。